

地域に守られた文化財「旧さきたま考古館展示土器類」

先日、新聞やニュースで「埼玉古墳群を特別史跡に」の文字をご覧になった方もいるかもしれません。11月15日に埼玉古墳群は、特別史跡に指定するよう文部科学大臣に答申されました。特別史跡は、史跡の中でも学術上の価値が特に高く、日本文化の象徴となるものとされ、建造物などの有形文化財でいう「国宝」に相当します。

さて、今後ますます注目度が上がっていくであろう埼玉古墳群の資料が郷土博物館にも收藏されています。それが「旧さきたま考古館展示土器類」です。市立さきたま考古館は、昭和34年（1959）4月に前玉神社の境内に開設されました。昭和29年（1954）の行田市と埼玉村の合併の際、村内の文化財の保全を求めた埼玉村側からの要望もあり、前玉神社境内に設置された展示施設です。縄文土器や土師器、須恵器、埴輪、瓦など280点以上の資料からなり、そのほとんどが個人による採集資料です。これらの土器



旧さきたま考古館展示土器類（須恵器）

類は、翌年に市指定文化財に指定されました。特に、須恵器や埴輪は埼玉古墳群から出土した資料も含まれ、中には稲荷山古墳出土のものと同ほ同じ型式の須恵器高坏（高い脚部がついた容器）もある貴重な資料群です。

明治時代後半以降、農地開発や埋め立てのための土取りなどで市内の古墳は次々と姿を消していきました。埼玉古墳群も例外ではなく、稲荷山古墳前方部をはじめとして戸場口山古墳、大人塚古墳などが崩されました。こうした状況を踏まえ、埼玉村では埼玉古墳群の史跡としての保全を図るとともに、昭和11年（1936）に村内に残る考古遺物についてまとめた『史蹟埼玉』を刊行しました。この本に掲載された遺物の多くは後にさきたま考古館に收藏され、散逸を免れました。さきたま考古館は昭和63年（1988）の郷土博物館の設立とともに役割を終え、「旧さきたま考古館展示土器類」は郷土博物館で收藏、現在も展示活用されています。

（郷土博物館 浅見貴子）

はじめまして



平成31年3月生まれのお子さんを募集します

- 1月6日（月）～31日（金）に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当（内線318）※応募要領は市ホームページをご覧ください。
- 応募者多数の場合は、2月4日（火）午前11時から市役所307会議室で公開抽選を行います。



平成31年1月生まれのおともだち



宇田 暖ちゃん（門井町）
平成31年1月22日生まれ
父・徹さん 母・圭さん
「生まれてきてくれて
ありがとう」



阪本 陽凧子ちゃん（埼玉）
平成31年1月16日生まれ
父・康秀さん 母・友美子さん
「毎日たくさん笑顔と
幸せをありがとう♡」



岡田 松ちゃん（谷郷）
平成31年1月31日生まれ
父・桂樹さん 母・実奈さん
「笑顔で力強い子に育ってね」



戸澤 和輝ちゃん（駒形）
平成31年1月21日生まれ
父・和也さん 母・文乃さん
「すくすく元気に育ってね」



久瀬川 蒼土ちゃん（佐間）
平成31年1月4日生まれ
父・泰正さん 母・幸世さん
「元氣いっぱい、
すくすく育ってね!!」



二本柳 琴美ちゃん（長野）
平成31年1月8日生まれ
父・建さん 母・綾美さん
「わが家のアイドル♡
癒しをありがとう」

今月の表紙

11月18日・19日の2日間に分け、市内全小・中学校で「記念給食」が提供されました。

これは、給食を食べて市制施行70周年をお祝いしようとして実施されたもの。中央小学校1年1組の児童らは、元気いっぱい「いただきます」のあいさつをした後、子供たちに人気の献立「わかめごはん」や「とり肉のから揚げ」などを、おいしそうに頬張っていました。

■ 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。

■ 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

■ 市報をダイジ版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。



環境にやさしい
植物油インキ

市報ぎょうだは
再生紙を
使用しています